



ショートコメント

★★★

Data 2023-39

監督・脚本：パトリス・ルコント

原作：ジョルジュ・シムノン
『メグレと若い女の死』（早川書房刊）

出演：ジェラルド・ドバルデュー／ジャド・ラベスト／メラニー・ベルニエ

メグレと若い女の死

2022年／フランス映画

配給：アンブラグド／89分

2023（令和5）年3月29日鑑賞

シネ・リーブル梅田

みどころ

日本の推理小説には、名探偵がつきもの。江戸川乱歩の小説では明智小五郎が、横溝正史のそれでは金田一耕助が大活躍！

他方、アメリカの『刑事コロンボ』では、一クセも二クセもある個性派のコロンボ刑事が見事な推理を働かせるし、生誕120周年を迎えたイギリスが誇るミステリー作家ジョルジュ・シムノンの『メグレ警視シリーズ』では、身長180センチ、体重100キロのメグレ警視が大奮闘！

時代は1953年、舞台はパリ。そこで発見された若い女性の死体を見て、次々とひらめいていくメグレ警視の推理とは？そして、その結果、辿り着く思いがけない結末は？

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

◆私が弁護士登録をした1974年から80年代にかけては、横溝正史の推理小説が大ヒットした。そこで有名になったのが金田一耕助探偵だ。他方、私が小学生時代に一世を風靡した推理小説は、江戸川乱歩の『怪人二十面相シリーズ』で、そこでは明智小五郎探偵や少年探偵団が大活躍していた。

◆他方、アメリカでは1960～70年代に『刑事コロンボ』が大流行。それに対して、フランスでは、生涯で400冊以上を執筆し、発行部数5億冊以上を誇るミステリー作家ジョルジュ・シムノンが世界的な人気作家らしい。そして、その最大のベストセラーは、「メグレ警視シリーズ」らしい。

そんなジョルジュ・シムノンの生誕120周年を記念して、『メグレ警視シリーズ』の中でも名作との呼び声が高い『メグレと若い女の死』を、ジョルジュ・シムノンのファンでもあるパトリス・ルコント監督が今般映画化。

◆そう言われても、そんな話は私は知らないことばかり。しかし、チラシにある“これほ

ど純粹に心を動かされる推理小説は無い” “本国フランスで初登場1位” “謎の先に、彼女の人生が見えてくる。” 等々の宣伝文句につられて映画館へ行くことに。

◆そのストーリーは、チラシによれば次のとおりだ。

ある夜、シルクのドレスを着た若い女が死んだ。片足には靴がない。不釣り合いなほどの高級ドレス。5か所もの執拗な刺し傷・・・・・・・・。

この謎めいた事件を担当するのが警視庁犯罪捜査部のジュール・メグレ警視。わずかな手掛かりをもとに、メグレは名前すらわからないこの若い女を殺した犯人を探すことになった。

◆金田一耕助を演じた俳優は、初代の片岡千恵蔵、5代目の高倉健、9代目の石坂浩二、そして12代目の渥美清と多士済々。歴代24代までであるからすごい。明智小五郎を演じた俳優も多いが、私が最も印象に残っているのは、ダンディで苦み走ったいい男天知茂だ。それに対して、刑事コロンボ役はピーター・フォークで決まり。

しかして、メグレ警視役は、歴代フランスを代表する名優であるチャールズ・ロートン、ジャン・ギャバン、マイケル・ガンボン等が演じてきたそうだが、本作ではフランスきっての名優ジェラルド・ドパルデューが演じている。身長180センチ、体重100キロという彼の体型は原作に最も忠実らしいから、まさにハマリ役。本作では、そんな名優ジェラルド・ドパルデューの年季の入った演技力をしっかり鑑賞したい。

◆本作でメグレ警視が挑む“謎解き”は、タイトルどおり“若い女の死”。パリはフランスの都として“華やかさ”が売りだが、原作の『メグレと若い女の死』は1953年のパリが舞台だから、敗戦後の名残が残っている。そんな時代に殺された若い女は白いサテンの夜会服を着ていたが、名も身元もわからないままだから、アレレ……。さあ、メグレ警視はどんな推理で犯人に迫っていくのだろうか？

2023（令和5）年3月31日記